

HANKYU GREAT GUIDE

五十音順で選んだキーワードを基に、TOKK編集部が魅力あるスポットを徹底紹介!今回は「い」。「1周147メートル」。

阪	急	沿	線
よ	い	と	こ
図	鑑	い	

「1周147メートル」

さくら だに けい べん てつ どう
桜谷 軽便 鉄道

能勢電鉄・妙見口駅

乗って見て楽し ミニチュアの世界

住宅街の中にひっそり
隠れた電車スポット

能勢電鉄・妙見口駅から南へ歩いて約10分、大阪府豊能町の住宅街にある家庭菜園用地の一角を個人所有の桜谷軽便鉄道が走る。

レール幅は本物の電車の3分の1ほど、15インチゲージと呼ばれるもので、車両の高さは約1.5メートル、幅は大きなものでも約75センチとすべてが可愛いミニサイズだ。

早速、その乗り心地を体験してみた。チンチン!という鐘の音を合図に、コトコトと走り始めた電車は車窓に能勢の山々や、線路脇に咲く季節の花々を映しながら、1周147メートルの旅へ連れて行ってくれる。あつという間だが、その景色はまるでどこかのローカル線に乗っているかのような気分になる。

編集後記

運転会は鉄道好きの人ばかりかと思いきや、元気な子どもたちでいっぱい。子どもに混じって大人も目いっぱい遊ぶスポットでした。(編集K)

小さくても本物と同じ。
大人の本気が詰まったミニ鉄道

桜谷軽便鉄道のオーナー・持元節夫さんは元々、電子部品計測器の会社を友人と経営しながら、自宅の庭に電車を走らせて楽しんでいたそう。現在の土地を購入したのをきっかけに、自宅を飛び出し、線路や架線を整え、1年に1台のペースで車両を増やしていった。今では、「車輪以外は全て手作りという面白さにほれた」、「手作りの面白さに感動した」というスタッフ10名がボランティアとして月1回の運転会に参加し、人員整理や運転手、保線などを担当する。低規格鉄道として日本の交通を支えていた軽便鉄道は、明治頃から各地に広がったが今ではほとんどその姿が残っていない。当時の風景や面影を追い続ける持元さんの元で、今日も列車は走り続けている。



菜園の入口に立つ踏切警報機が桜谷軽便鉄道の目印。



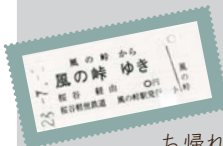
2つある駅のうち、桜谷駅は昭和の初めまで豊能町で操業していた桜谷鉱山から、風の峠駅は宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」などのモデルと言われているかつての岩手軽便鉄道・仙人峠駅をイメージして名前が付けられている。



電車、蒸気機関車など17台もの車両が活躍中!

COLUMN

桜谷軽便鉄道のツボ



運転会の日に希望すると硬券(写真左)が渡され、記念として持ち帰れる。運転会の2時間前からは先着5名限定で運転免許を取るための講習も開かれていて、鉄道が好きな人には単に電車に乗るだけではない楽しみも用意されている。講習を受けると、まずは添乗限定の運転免許証書(写真右下)が、その後、さらに何度も講習を受けスタッフに認められれば、1人乗車の運転免許証書まで発行されるそう。スタッフの中には、子どもの頃から通い続けて、今では社会人として働きながら、運転会を手伝っているベテランもいるとか。



桜谷軽便鉄道

【無料運転会】
毎月第1日曜の13:00~15:00
(運転講習会に参加を希望の場合は11時より受付(先着5名)、12時より講習会を開催)
お問い合わせ: Eメール (sakura002@nakanoke.com) またはホームページ
http://www.nakanoke.com/sakuradani/
※阪急川西能勢口駅より能勢電鉄のりかえ妙見口駅下車 南へ800m